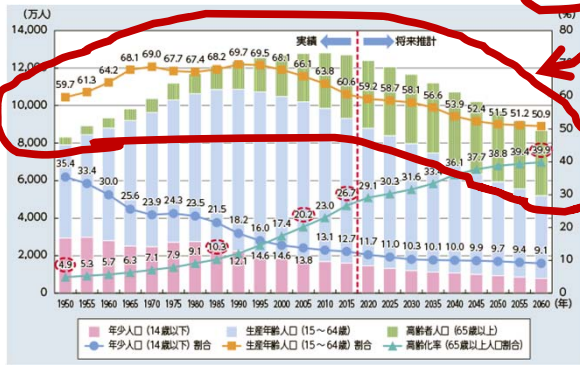


高齢者がん治療における機能評価スケールおよび介入プログラムの開発

【現状】

- ・超高齢化・多死社会の到来
→ 高齢がん罹患患者数増加



【高齢がん患者が抱える問題】

- ・臓器機能障害や併存症の既往が多い
- ・重篤な有害事象が生じやすい
- ・個体差が大きい



高齢者がん治療におけるエンドポイントは、**生存期間でなく、身体機能・認知機能も含め複合的に評価することが重要**

【課題】

- ・女性特有のがんである子宮頸がんは、ワクチンの普及率低く、今後増加が予想される
- ・高齢子宮頸がん患者では長期入院治療、認知症発症増悪、ADL低下より、治療に伴うQOL低下が報告されている

【研究内容】

- ・適切な高齢者機能評価スケールの開発
- ・効率的な介入プログラムの開発

【展開】

事前機能評価に基づいた適切な治療と効率的な介入



リハビリテーション

口腔内ケア

栄養指導

保健福祉

がんに対する社会的啓発活動